



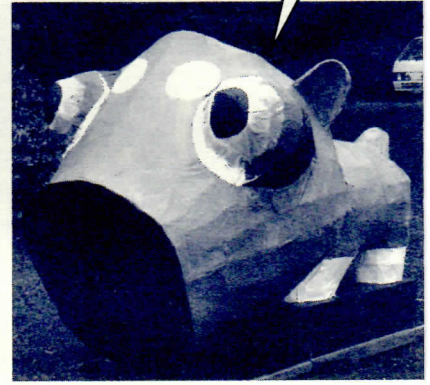
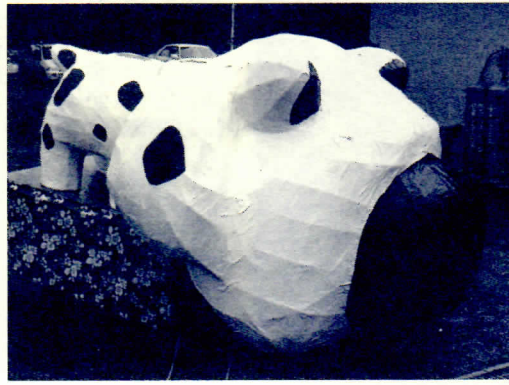
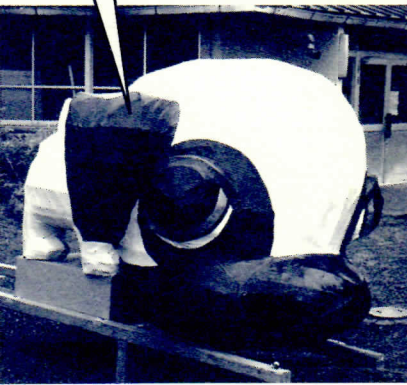
おちほ

第43号 平成14年6月10日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 山下 陽一

祝・開寮記念日



で、ボクらの
出番は一体...?



残念!

毎年恒例の五月一日に行われる氏神まつりですが、今年は前日からの雨が朝になっても止まらずに中止となってしまいました。せっかく作った三体のお神輿も東寺地区の方々や他施設の方にお披露目することもなく、落穂寮へ続く坂道にひっそりと展示されることに...。せめて上の写真だけでも出来映えを見てやって下さい。それにしても今年はお花見遠足も雨に降られ、お天気との相性は今ひとつ。誰か雨男か雨女がいるのでは? という話もちらほら...。今年の新人さんの中に居るかもしれないので後ページの写真から犯人探しをするのも一興かも。

さて、お昼からは開寮記念日の昼食会。体育館を会場にしてスキヤキをみんなでいただきました。お祭りは雨で中止になってしまいました。寮生さん達はそれに落込むことなく元気に参加。自分でスキヤキをしたことのない職員のテーブルもいくつかあって、甘すぎたり、しょっぱかったり、こがしてしまったり、鍋もあつたようですが、寮生さんはおかまいなしにみんな笑顔、笑顔でどんどん平らげていきました。この寮生さんの笑顔のように来年は晴々としたお天気になりますように。

昔今ふく

甲賀地域社会福祉法人連絡協議会

理事長 増田正司

桜も散り、つつじが花をひらき、初夏を迎えようとしています。寮生のため日々がおだやかにと願うばかりです。椎の木ならびに落穂寮・杉山寮にお力添えをいただいている、みなさんが何時までもお元気で日々をつつがなくお過ごされますよう願ってやみません。

さて先ごろ県の指導のもと、甲賀地域の障害施設を運営する社会福祉法人理事長の総意により「甲賀地域社会福祉法人の連絡協議会」が発足しました。

最近、各地で社会福祉法人の不祥事が続出し、忌まわしく報道されました。いわば福祉を食い物にした事犯や入所者への暴力障害事件がおきています。福祉関係者も社会一般も深い悲しみや憤りを感じさせられます。福祉施設の運営に関係する者にとつてはたいへん重大なことがらであります。福祉の専門家であっても、人間としての自覚や良識がまた社会人としての自覚や良識が欠けているとしか言いようがありません。運営にたずさわる法人役員の出番が今こそ求められているとすれば、永い人生をのりこえてきた社会良識と英知からの助言や忠告が、施設生活に生かされな



△更生施設 ”落穂寮” 竣工式での木村要さん（中央）

ればならないと考えるのです。ノーマライゼーションとは、施設が社会から閉ざされてならない、社会と共存する明るい未来指向の営みを作らねばならないでしょう。郡域の法人が共通の念願をもち、検討・研修し協力しあって障害福祉に一層の貢献をしたいとねがって協議会が結成されました。なぜか、私があるの会長に選ばれました。微力ながら発足の初心のもと力をつくしていきたくと考えています。

永年、椎の木会理事として、落穂寮を愛し、杉山寮を愛してくれた、木村要さんが去る四月十三日逝去されました。滋賀県手をつなぐ育成会の会長として知的障害の人たちの福祉のため一身をささげて働いた方でした。椎の木会の役員会でいつも私の隣にすわられていたのに、深い惜別の思いとともに哀悼のまことをささげたいと思います。これからも私どもをお守りください。（〇二・四・二五）

昔今ふく

世田谷展あれこれ

寮長 山下陽一

二〇〇二年三月十三日より十七日まで、東京・世田谷美術館において四施設（落穂寮、一麦寮、第二びわこ学園、栗東会かよし作業所）が合同で作品展示会を開きました。「第三回土をうたう展」と銘打ち、東京方面のひとたちに作品を紹介しました。たった五日間の短い開催でしたが、たくさんの人たちの来場があり、主催した側として本当に満足しています。そのなかでたくさんの方との出会いがありましたが、そのなかの二つの出会いを紹介します。

それは「へび」だよ

美術館の近くにある幼稚園の子もたちが十四、五人、二人の先生に引率されて、ガヤガヤと展示場にはいつてきました。集団ですのみならず静かにみているわけではなく、敷物に靴を引っ掛けたり躓いたりしながら駆け回っていました。二人の先生も子どもたちの動きには手を焼いている様子でした。わたしもその様子を見ておりましたが、「こんなに「は」とあいきつすと応えてくれます。子どもたちは「これ何でできていますか」「どうしてこんな形をしているんですか」など、中には答えに窮するような質問が出て、結構面白がっていました。その子どもたちの中にダウン症の子がいるのを見つけました。仕事柄どんな子どもにか気になります。一人になつたとき声をかけます。あいさつです。からすぐに通り返るのですが、他

の子どもたちのグループに説明しながら会場を回っていると、彼も氣をゆるめてくれたのか、手をつなげるどころまでになりました。その子と数人の子どもたちと一緒に第二びわこ学園の作品の前に来て、そのダウン症の子に「これなーんだ」と尋ねました。するとその子ははにかんだような小さな声で「イビ」と答えました。その作品はちょうど小餅を細長く引っ張ったような形で、両端に豆粒を押しています。すると一緒にみていた男の子が、「おじさんこの子は上手に話せないの」「へびだといってるよ」とわたしに伝えてくれました。わたしはここで言う以前に作品展があったので作品のタイトルは知っていたのですが、タイトルと実際のイメージが離れているためよく理解できなかつたところでした。この子にはそれが何なのかちゃんと伝わっているのです。スタッフにこんなことがあったことを伝えようと、その場に居たかつた大塚口惜しがっていました。が、ひよつとすると約一、八〇〇人の入場者のうちそれを見抜いたのはダウン症の子だけだったかも知れません。そしてなかだちしてくれたい子はたまたまにも強い印象が残りました。

車椅子の女の子

その子はいかにも動物の絵が描いてあるスポークカバリのついた小型の黄色い車椅子に乗って展示場にやってきました。少しなら手で自分の車を動かせるように作品を、若い父親らしい人と一緒に作品をみておりました。わたしも受付にいて目礼した程度でしたが、気になるので時々

車椅子を視線で追っておりました。彼女は椅子のうえで、もう一度あつち、次はこれ、父親に伝えながら喜びを全身で表しながら会場を回っておりました。途中休憩させようとしたのかロビーに留まり父親が携帯電話で家族の人に「喜んでいるので少し遅れるから」と連絡しておりました。あれこれ見たのちの帰り際、受付にいる私のところで留まり「ありがとうございますか。」という父親のこぼれに、硬直しかけた左手が椅子の上に乗ったまま、手首をふってパイパイをしている様子です。わたしは近寄って「こんにちちは、ありがとうございます」「こんには、ありがと、握りしめた」と声をかけて「じゃ、握りしめたか」というと、細く小さい手で握ってくれました。おそらく二度とたたいて別れました。

ここに書きましたように、この作品展に尋ねてくれた近くの幼稚園の子どもたち、ダウン症の子どもたちと、その子の言っていることを通訳してくれた子ども、また、かわいいスポークカバリの車椅子の重度身体障害の少女、心臓病をかかえたダウン症の少女のお母さんなど、たくさんの方々が集まってこれらの作品に共感してもらいました。私たちも新しい出会いをたくさん持つことができました。大変得がたい体験をさせていただいたことを感謝して

います。また、多くの皆さんにたくさんのご支援をいただいで実施できました。ありがとうございました。

第三回 土をうたう展

場所 世田谷美術館区民ギャラリー
期間 二〇〇二年三月十三日～十七日
主催 第三回土をうたう展実行委員会
後援 滋賀県
・世田谷区
・京都新聞社会福祉事業団
・朝日新聞厚生文化事業団
・テレビ朝日福祉文化事業団
・松下電器
・滋賀銀行

すばらしい芸術家たちへ

あなたには すばらしい「さくひん」をつくっていますね。ぼくは まえから 感心していました。そのぼくの 感じていることを なんとか あなたがたに わかかってもらいたいと思つて 書いています。どうか 読んでください。人間の いちばん えらいところは、ものを つくることです。なんとかして、ものをつくらう。絵をかこうとする、つよい気持ちがある、人間の いちばん えらいところです。あなたがたには その気持ちが おどろくほど たくさん ありますね。



Hiroshi Kunimatsu 2002 30
「かたち」

そして、ひとりひとり、心のなかに 持っている せかいを「かたち」 にしてつくるのです。あなたがたは ひとりひとり、はつきりとした「かたち」を 心のなかに、もっていますね。じぶんたちが すんでいるところ、ともたちの顔、せんせいの顔、こわい かいじゅうのすがた、そういうものを いっしょうけんめい つくっています。じぶんのいのちを きりきざんで、じぶんの心のすべてを そそごこていいます。そして、そのつくりかたは、ひとりひとり、すばらしい くふう をしています。にんげんの顔を つくるのに、顔のしょうめんと 顔のうえをつくらなければならないことを していますね。それは ピカソというたいげいじゅうつかが いっしょうけんめい みつけた やりかた おなじです。あなたがたは それを まねしたのではありません。じぶんたちが はつめいしたのです。それが えらいのです。そして もっと すばらしいことは、そのつくりだされたもの、ひとつひとつに きよらかな 心が いっぱい こめられて いることです。あなたがたには こういうふうなすべい、ゆうめいになれる とか、世のなかのひとにほめられる とかいう、気持ちがありません。また、じぶんの つくったものを じぶんで せつめいしません。これはいまの世のなかで、どんなに えらい、いじゅうつかにもない、いちばん えらいところです。





に思えま
す。しか
し、まだ
まだわか
らないこ
とや、失
敗をくり
返してし
まうよう
なことが
度々出て
くると思

で働けることを幸せに思い、日々勉強して人間としてひと回りもふた回りも成長していきたいです。一日も早く寮生さんだけでなく先輩方も信頼関係が築けるように、接していきたいです。自分の Motto である笑顔を忘れずに、働いていきますので、どうぞよろしくお願いします。



今年の四月から落穂寮の女子棟で働かせていただくことになった早坂雅美です。龍谷大学短期大学の社会福祉科を今年卒業し、社会人への一步を踏みだしたばかりです。

働き始めてもうじき一ヶ月が経とうとしています。最初の方は不安と緊張で押し潰されそうになっていましたが、最近は少しづつではあります。仕事の内容や寮生さんとの関わり方がわかってきた様

います。この先も寮生さんや職員のみなさんにはご迷惑をおかけすることと思いますが、どうぞよろしくお願いします。

私は出身が東北地方の岩手県です。短大入学から関西に住んでいのですが、関西がいいですね。都会にも田舎にも近いところが大好きです。十八年間田舎に住んでいた私にとって、こんなに住みやすい所はない!と思うくらいです。そんな環境の中で生活していける私は本当に幸せ者です。

こんな私ですが、落穂寮で働いていく中で、寮生さんとの信頼関係を築き、お互いに成長しあえれば、と思っています。私が福祉の仕事がしたいと思つたのも、これが大きな理由の一つです。日々学び、一日も早く先輩職員さんに追いつけるように、自分なりに頑張つていきたいです。



今年の四月から女子棟で働くことになりました森本聡子です。私は大阪医療技術学園専門学校の医療福祉心理科を卒業して、社会人一年目の新人です。実は学校では精神障害について主に学んでいたのですが、落穂寮に来てわからないことが沢山ありました。それにくわえて仕事の流れも覚えていかなければならず、不安とあせりで一日

森本さんと村井さん



つでも揃えることができた所にいた私は、車もないので、それなりに苦労しています。しかし、反対にここではない物もありました。そんな環境的にも素晴らしい落穂寮で、頑張つて行こうと思ひますので、どうかみなさんよろしくお願ひします。



四月から炊事職員として、お世話になる事になりました中藪昌美です。小学校六年と四年の子供を持つ母です。四年間生活ホームのキーパーをしていました。7人の母としても仕事をしてきました。子供の頃からこの土地で大きくなり落穂寮の寮生さんの事は見ていましたし、知っていました。

まさか自分が職員で働かせて頂く事になると思つていませんでした。炊事職員として愛情豊かな、幸福になつてもらえるような仕事が出来たらいいなと思つています。それと最後に楽しく明るくをモットーにした1です。

リンゴを切る中藪さん



予報二毛負けズ 雨二毛負けズ：



▲雨にも負けずがんばれ！

お花見遠足

天気予報で降水確率も高く、前日から雨が降っていました。が、「やっぱ当日にならない」と職員の前向きな願いも空しく、当日は小雨。当初の予定がダメになりましたが、「小雨やしやむ、やむ。」とこれまた前向きな職員の考えで、雨山運動公園に場所を変更して出発しました。しかしこれまた職員の前向きな考えで、雨が降る、降る。寮生さんはポンチョ(雨ガッパ)を着てがんばって歩いていました。雨山運動公園のキャンプ場にてお



弁当を頂きました。天気は悪かったのですが、花より団子の寮生さんにご機嫌で、おいしそうにお弁当を食べていました。記念写真を撮ろうという時になって、最後にやっと思いが通じたのか、雨があがり皆で記念写真を撮る事ができました。今年桜の開花も早く、雨山の桜もほとんど咲いていました。雨で散り気味でしたが、ぼちぼち残っていて良かったです。雨の中、寮生さんは本当にご苦労様でした。最後に男子棟職員を代表して一言、「来年は晴れてくれー。」

◀お弁当は中止しないぞー！

トピックス

ゆとりを持って たたみましよう

3時のおやつを食べた後に、男子棟では洗濯物の仕分け、たたみの時間になります。30人分の洗濯物なので、いつも山の様にあります。(大型の洗濯カゴ4〜5コ)

まずは職員がそれを寮生個人のカゴに仕分けします。寮生さんはその自分のカゴを持って、洗濯物たたみをしています。自分でたためる寮生さんは自分でできない寮生さんが、実際は自分ではできない寮生さんがほとんどなので、職員がついて寮生さんと一緒にたたみます。落穂寮では基本的なたたみ方があ



▲1対1でゆっくり取り組み

「自分でできる事は自分で」を寮生さんにはがんばってもらっています。職員にとつてこの時間はとても大切な時間です。一人一人の寮生さんと接する時間はそうはありません。洗濯物たたみの時にその寮生さんの調子や状態をしっかりと見ながら取り組んでいます。決して早く済ませようとはせず、この時間だけはゆとりを持って接していきたいと思っています。

▼さあ、始めようか！



〆雨天決行・お花見遠足〆

去る、四月七日にお花見遠足を行いました。今年には桜前線が早く到来した為、昨年よりも日にちを早めて行くことにしました。

しかし、当日は残念ながらあいにくの大雨で、お花見遠足自体がお流れになるところでした。出発の時刻になって止む気配なく雨は降り続いており、雨VS私たちの根比べのような状態でした。出発から遅れること二時間弱、雨が小雨になったので行き先を阿星児童館前の公園に変更し、みんな仲良く長靴をはいて出発しました。

ピチピチ、
チャブチャブ、
ランランラン♪

美味しそうなお弁当を背中に背負って、予定よりかは短い距離でしたが、天候に負けずに楽しく歩きました。

公園に着くとすぐにお弁当です。



▲早く食べたい!!

みんなお腹が空いていた、用意するのが早いこと早いこと！さっさと靴を脱いでブルイシートの上に座り「いただきます」の掛け声を待っています。お弁当も、みんなの大好きな物ばかりで、とても幸せそうな表情で溢れかえっていました。そんな表情を見ると天気が悪くてもお花見遠足が出来て良かったなあとつくづく思いました。食後も、遊具などは朝からの雨で濡れてはいましたが、寮生さんにとつたらそんな事はお構いなしで楽しんでいましたよ。



残念ながら雨で肌寒かった為、トイレが近かったり、お腹が緩んでしまった寮生さんもいましたが、お花見遠足と言う名目は置いておいて、楽しいひとときを過ごせたのではないのでしょうか。来年は、晴れますように…。

へ人気者(?)がやって来た!

女子棟に入ると寮生さんや職員よりも早く出迎えてくれる人(?)がいます。今年の3月に我が女子棟へやってきて毎日休むことなく寮生さんの生活を見てくれています。なんとその正体はというと…パンチングマシーンなのです。真つ赤な身体で、目や鼻などもついているとてもリアルなものなのです。

寮生さんのストレスの解消になればとの思いでやって来たのですが、残念ながら、人気者には未だなれずの状態で、数名の寮生さんにしか近寄ってはもらえていない様です。寮生さんよりはかむしる職員のほうが叩かせていただいている事のほうが多くて、文句は言えないのですが、宿直の職員にとつては少し不気味な存在なのです。その問題の



▲何を話しているのでしょうか?

パンチングマシンは廊下に置いてあるのですが、微妙に明かりに照らされておき、ふと見ると見知らぬ人が立っているように見え一瞬心臓が止まるような思いをさせられるのです。しかし、パンチングマシーンに近寄っていく寮生さんを見ていると、抱きついたり話し掛けたりしており、みんなが笑顔で接しているのです。寮生さんたちにとつたらストレス解消というよりも、いま流行の癒し系パンチングマシーンなようです。どうも、誰かが動かさないと寮生さんたちの視界には入らないよう、ダンシ

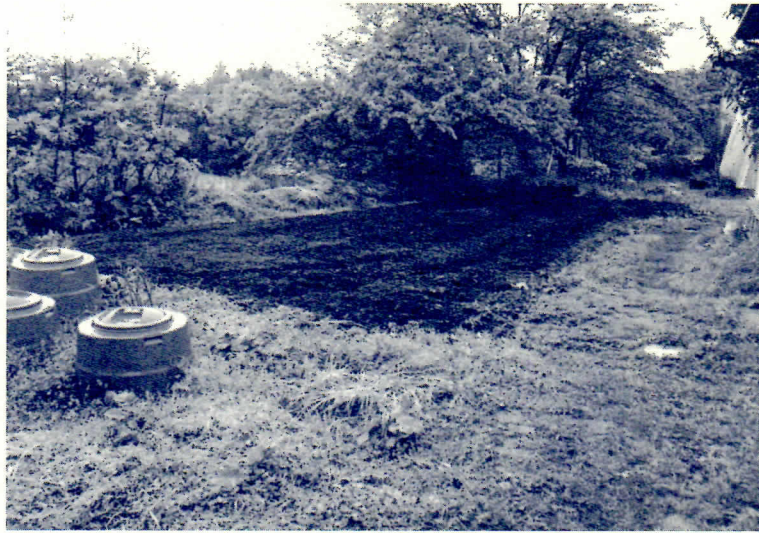


▼ハイ、ポーズ!!

ングパンチングマシーンでもあれば女子棟一の人気者になれるとは思うのですがねえ…。

葱はたたかろ

落穂寮生の食欲は、果てがな
く、とどまるところを知りませ
ん。こちらが止めなければ、出
されたものを全て平らげてしま
う勢いです。そんな状況です
ら、落穂寮の台所事情は（我が
家の台所事情と同じように）常
に火の車です。少しでも緩和さ
せるには、必要な食
材を自分達で作る
以外にはありませ
ん。幸い、落穂寮
には、猫の額の
畑がありました。
しかし、食べるこ
とはできても、物
を創造することの
難しい人達です
で、何をどうして
いいのやら。そん
な声を聞いてか、
東寺の吉川かなさ
んと吉川ちえ子さ



△きれいに耕され、葱を心待ちにしている畑

目見えする予定でした。でも、
落穂寮の葱には、このあと過酷
な試練が待ち受けていたのです。
葱は、暑い日が続いても水分補
給もままならず、大きくなる前
にちぎられて寮生さんの胃の中
に入るものもあれば、雑草のよ
うにひっこ抜かれてしまうもの
も後を絶ちません。何とか生き
残れたとしても、痩せた土地か
ら吸収できる栄養は乏しく、思
うように大きくなれないうちに不
本意にも食卓に出してしまう始末。

そこで、今年も少しでも頑張っ
て大きく育ってもらおうと大量
の肥料を投入。しかし多すぎて
耕運機では耕せず、急遽、北村
勇さんのお力を借りてトラクタ
ーにて耕運。これで準備完了。今
年もかなさんとちえ子さんが葱
を植えて下さるとの事で、大変
うれしく、また、ありがたく思
うと同時に、私達職員一同も、志
し半ばでつみ取られるものがな
いように、葱・寮生ともどもしっ
かりとケアしていかなければと
思っています。皆様の御協力に
心から感謝してじっくり味わい
たいと思います。

いただきます

▽社会福祉法人権の木会の運営に長年
御尽力を頂きました木村要さん、そし
て、これまで多大な御寄附をお寄せ頂
き、落穂寮・杉山寮を支援して下さいま
した佐藤吉治さんが、御逝去されました。
御冥福をお祈りするとともに、つ
つしんで哀悼の意を表します。

泉

▽新年度がスタートしました。落穂寮
が毎年迎える四月は、新たな職員が仕
事に慣れ、寮生さんに慣れるまで、毎
日が戦争のような状態になります。特
に寮生さんの行動は日々変化し、対応
の仕方を間違えるとそれがどんどん大
きくなって收拾のつかない状況に陥っ
ていく危険性を秘めています。何があ
っても、『怒らず』『叱らず』『ぶつ
ぶつ言わず』を指導部のモットーとし
て、頑張っていきたいと思えます。

△△△木 言

ちよこちよこ手をかけなければ
ならないもの。あまりかけては
いけないもの。要所要所できちん
とかけておくもの。それぞれに応
じて対応の仕方をきちんとわかま
えておくことが、うまく育てるコ
ツ。そのためは、いつもしっか
り見ていてあげることが大切です。
枯れないように、腐らないよう
に。そして、楽しく生きてもらえ
るように。